

舞鶴引揚記念館の概要

～50年の時間を超え、再出発の地舞鶴から
今伝えたいメッセージ～



1. 設置目的

舞鶴港

○昭和20年から昭和33年までの13年間に海外から66万余人の引揚者と1万6千余柱の遺骨を迎え入れた。

○昭和25年以降は国内唯一の引揚港「引き揚げのまち・舞鶴」

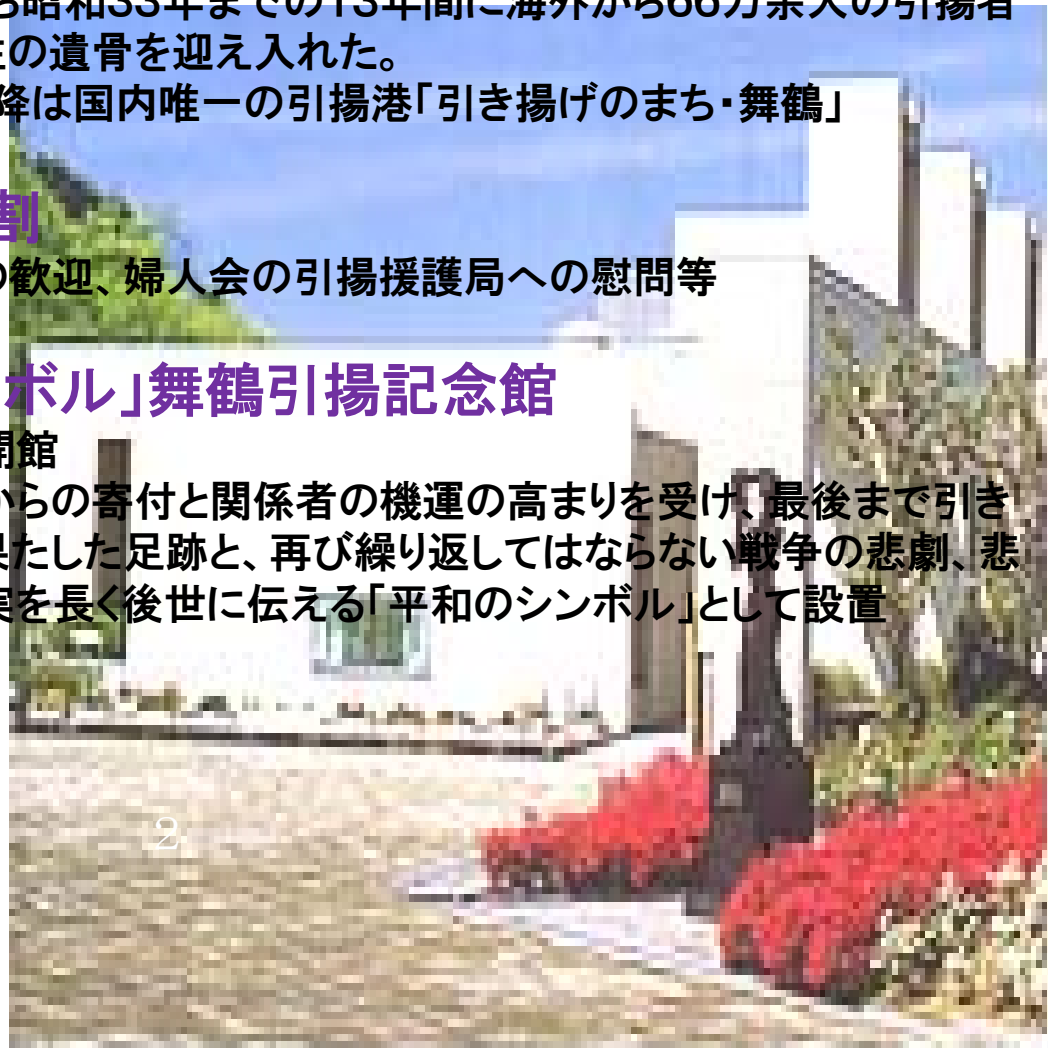
舞鶴市の役割

全市民あげての歓迎、婦人会の引揚援護局への慰問等

「平和のシンボル」舞鶴引揚記念館

昭和63年4月開館

全国の引揚者からの寄付と関係者の機運の高まりを受け、最後まで引き揚げの使命を果たした足跡と、再び繰り返してはならない戦争の悲劇、悲惨な引揚げの史実を長く後世に伝える「平和のシンボル」として設置



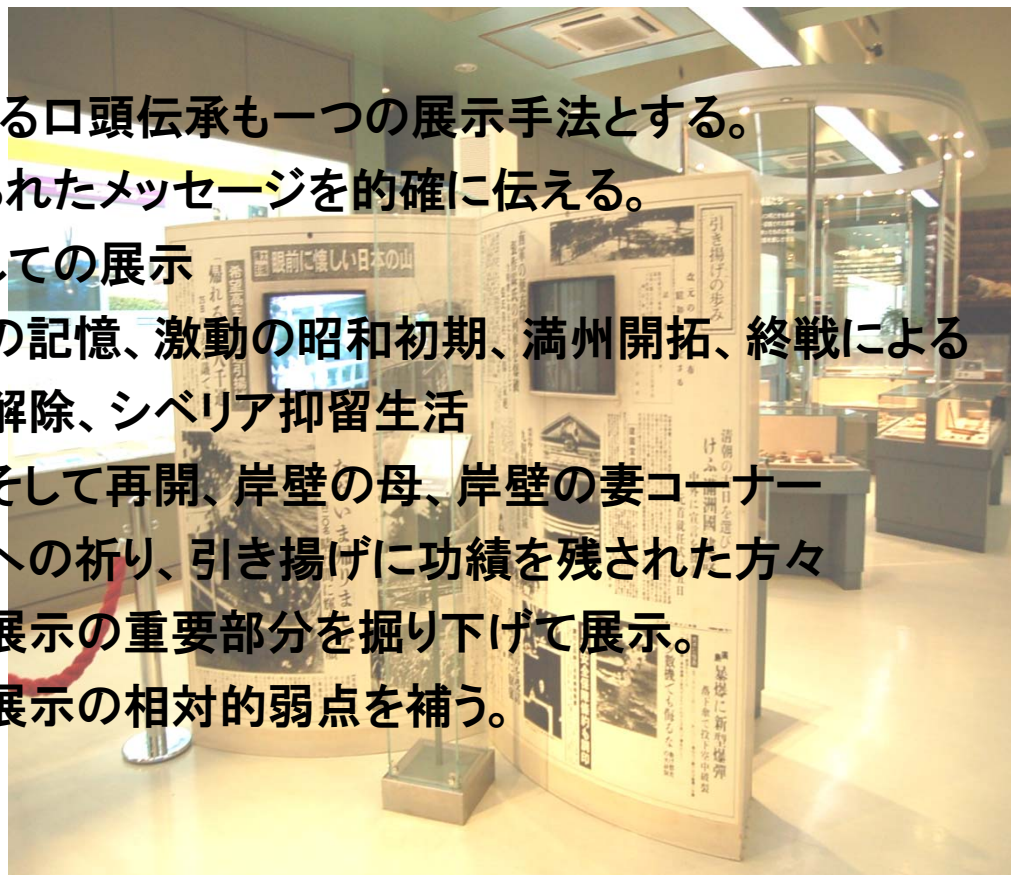
2. 事業概要

①資料展示の基本的な考え方、展示内容

○各資料に込められた思い、記憶を来館者に伝えるために。

- ・「語り部」による口頭伝承も一つの展示手法とする。
- ・資料に込められたメッセージを的確に伝える。
- ・ストーリーとしての展示

- ☆常設展示1 苦境の記憶、激動の昭和初期、満州開拓、終戦による武装解除、シベリア抑留生活
- ☆常設展示2 帰還そして再開、岸壁の母、岸壁の妻コーナー
- ☆常設展示3 平和への祈り、引き揚げに功績を残された方々
- ☆企画展示 常設展示の重要部分を掘り下げて展示。
常設展示の相対的弱点を補う。



②所蔵資料数、展示資料数

○所蔵資料数 11,209点

主なもの

衣類:310点 生活用品:540点

写真:1,032点 絵画:1,049点

証明書類:309点 手紙類:482点

新聞類:329点 引揚手記:263点

書籍3,775点など

○展示点数 約900点

③資料の収集

○引揚者並びにご遺族からよせられた寄贈品

○厚生省、京都府、各報道機関や多くの市民の方からの貴重な資料や写真の提供

○毎年寄贈者あり、19年度実績55人84点



④展示以外の事業

○記念館で所蔵する書籍、視聴覚品の閲覧が可能。

蔵書3, 775冊

○抑留、引揚関連資料収集・調査の場としての
「舞鶴引揚記念館」

NPO法人舞鶴・引揚語りの会との協力体制

3. 運営上の工夫

①展示説明員の配置

○ボランティア団体による記念館の案内や展示品等の説明

★実体験者から次世代への「語り部」の引き継ぎ

「語り部養成講座」の開講による後継者の育成

受講生によるボランティア団体の結成、平成18年10月NPO法人「舞鶴・引揚語りの会」として認可 会員数43名



②ICTの活用等

○舞鶴引揚記念館ホームページ

平成14年ホームページ公開、記念館の案内等については、順次更新
今後、収蔵資料や収集資料のデータベース化による公開、失われて
いく証言の記録、発信が必要

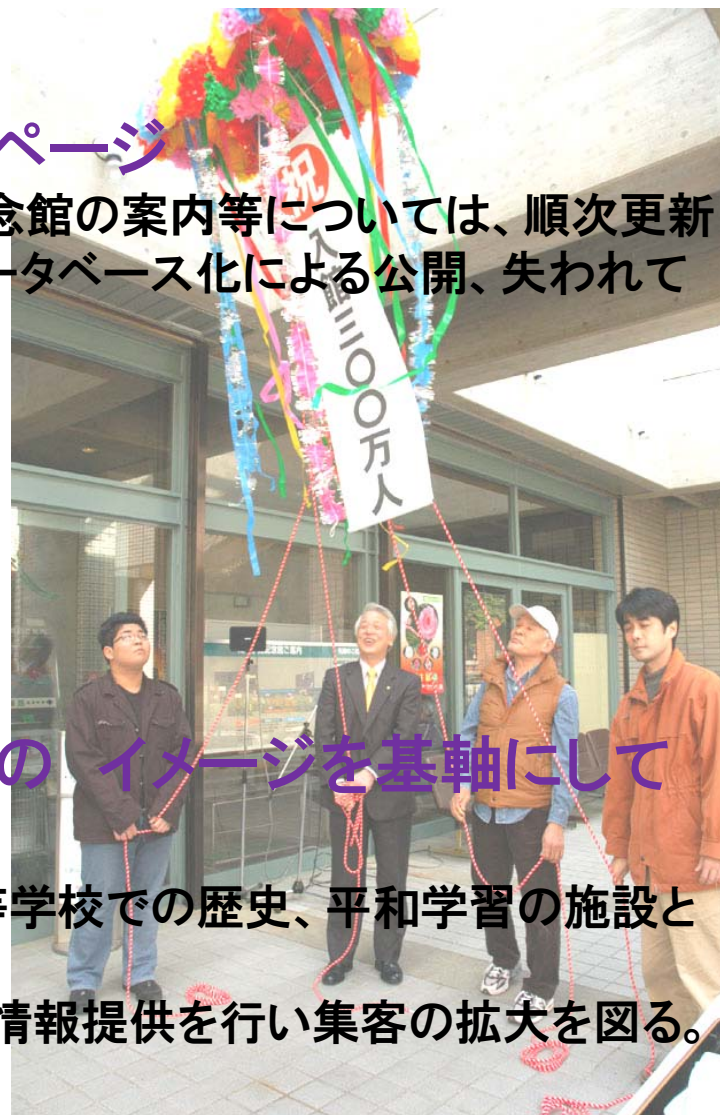
③来館者を増やすために

○年間約12万人の来館者

○「引き揚げのまち・舞鶴」のイメージを基軸にして 集客の拡大

☆近隣市町村も含めた小・中・高等学校での歴史、平和学習の施設と
して紹介。

☆観光施設として旅行会社等にも情報提供を行い集客の拡大を図る。



平成19年3月17日

④次世代へ訴えかけるために

ODVD「2005年 私たちの船旅～引き揚げ・過去から未来へ～」作成

引揚者が第一歩をしるした棧橋のある平地区の大浦小学校の6年生が「引き揚げ」について学ぶ姿を描いたドキュメントDVDを作成し事前学習用として貸出、「NPO法人舞鶴・引揚語りの会」の出張講座等で利用

○子どもフォーラムの開催

「NPO法人舞鶴・引揚語りの会」による独自開催



○引揚最終船入港50周年・引揚記念館開館20周年 記念事業

～50年の時間を超え、再出発の地舞鶴から今伝えたいメッセージ～

戦後13年間にわたり行われた海外引揚事業。引揚港となったまちは、彼らを温かく迎え入れ、新しい生活へと旅立つ「再出発の地」となりました。

この節目の年に舞鶴市では、今一度「平和の尊さ・平和の祈り」のメッセージを発信し全国へそして次世代へとその輪を広げる機会とします。

期間 平成20年9月6日(土)・7日(日)

☆平和祈念フォーラム2008

平和祈念事業特別基金主催 舞鶴市共催

☆引揚関連市連携企画展

平和祈念事業特別基金、引揚関連市の持つ貴重な資料を 一堂に展示

☆こどもたちからのメッセージ・記念講演

こどもたちからのメッセージ、感想文の発表、講評・講演

☆「岸壁の母」案内板除幕式

市民団体による「引き揚げのまち・舞鶴」の案内板設置

